

微生物が牛の受胎性および 繁殖成績に及ぼす影響

－ 如何にして、制御・共存すべきか？ －

下記のとおり、開催しますのでお知らせします。

1 開催日時

令和7年（2025年）12月12日（金）14：30～16：30

2 開催場所

北海道グリーンランド ホテルサンプラザ（岩見沢市4条東1丁目6番地1）

※ZOOMアプリを用いたWEBとのハイブリッド開催

3 内 容

（1）講 演

微生物が牛の受胎性および繁殖成績に及ぼす影響

－ 如何にして、制御・共存すべきか？ －

宮崎大学農学部獣医学科産業動物臨床繁殖学研究室 教授 大澤健司 先生

（2）対策事例

管内一地域で継続的に発生した牛ウイルス性下痢への対応

北海道留萌家畜保健衛生所 獣医師 酒井悠輔 先生

（3）情報提供

牛ウイルス性下痢生ワクチン「ボベラ®」の紹介

ベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン(株) マネージャー 池田恵子 先生

4. 主 催

空知獣医師会

5. 協 賛

日本全薬工業株式会社

ベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン株式会社

参加申込み方法

11月28日（金）迄に、所属・職名、氏名、連絡先（TEL、E-mail）を明記し、
空知獣医師会事務局へE-mail（rjsk1711718@yahoo.co.jp）でお申し込み下さい。



本研修会について

産業動物の生産活動では、良好な繁殖効率による生産性の向上が重要です。その繁殖効率を妨げる原因の1つに、細菌やウイルス等の病原体の感染があり、病原体感染による異常産や発症等の目に見える直接的な損失の他に、授精や受胎、胚や胎子に影響を与えて、繁殖効率を妨げる間接的な損失もあります。

一方で、最近話題のマイクロバイーム（微生物叢）やプロバイオティクス（良い影響を与える微生物）も踏まえると共生すべき微生物もあります。

そこで、今回は、日頃、牛の繁殖の検診や治療等を専門とする診療獣医師と感染症や病原体を専門とする家畜衛生獣医師を主な対象に、牛ウイルス性下痢（BVD）ウイルスなどの感染症対策に重点を置いて、主題を「微生物が牛の受胎性および繁殖成績に及ぼす影響」として、微生物を如何に制御又は共存するかについて、講演をお願いしています。

また、BVD対策では、BVDウイルスの持続感染（PI）牛を摘発・とう汰し、ワクチン接種によりPI牛を生産しないことが重要です。この対策について新たな取り組みで成果が得られた事例「一地域で継続的に発生したBVDへの対応」の発表、そして、この対応で使用されたBVD生ワクチン「ボベラ®」の紹介もお願いしています。

本研修会が、それぞれの専門獣医師の情報共有および連携推進が図られる機会となり、本道の牛飼養農場における繁殖効率の向上に寄与できればと考えています。

問合せ：北海道空知家畜保健衛生所（高久英徳）

TEL：0126-22-4212 FAX：0126-23-9676

E-mail：takaku.hidenori@pref.hokkaido.lg.jp

